

被災者の皆さまに心から
お見舞い申し上げます。

発行 連合災害対策救援本部

電話 03-5295-0539 FAX 03-5295-0547 soshiki@sv.rengo-net.or.jp
日本労働組合総連合会(連合) <http://www.jtuc-rengo.or.jp/>

1. 連合救援ボランティア第2陣 福島に出発

連合本部は、4月8日午前、福島に派遣する連合救援ボランティアの第2陣約70名を送りだしました。

4月7日深夜に宮城県沖を震源とするマグニチュード7.1、最大震度6の地震が発生しましたが、連合災害対策救援本部は、各拠点の受け入れ態勢について確認・検討した結果、本日の出発を予定していた宮城チームは派遣を見合わせ、岩手チームは4月10日まで出発を延期、福島チームについては現地の安全が確認されたため予定通り派遣することを判断しました。

連合本部前で行われた福島チームの出発式で、南雲事務局長は「連合ボランティアへの期待は日ごとに高まっている。皆さんが元気で帰るまで、連合本部は全面的にバックアップする」と激励の言葉を贈り、現地で安全に活躍されることを祈念しました。

参加者を代表して、電力総連の太田・社会産業局次長は、「3月25日より相馬でボランティア活動を行ってきたが、現地での活動は思いの外重労働である。被災者のための支援はもちろん、自分たちの健康にも気をつけ元気で帰ってきます」と力強く決意を表明しました。

参加者はその後バスで福島へと向かい、福島拠点(担当・相馬周辺)と今回新たに設置された会津拠点(担当・いわき、会津若松周辺)に分かれ、現地でのボランティア活動に従事します。



福島チーム

2. 岩手、宮城、福島チーム第 1 陣 無事帰着

3 月 31 日から宮古、東和(花巻)、仙台、福島を拠点にして被災地でボランティア活動を展開してきた第 1 陣の岩手チーム、宮城チーム、福島チームは、本日午前、全員無事に帰着し、連合本部前で南雲事務局長らに迎えられました。



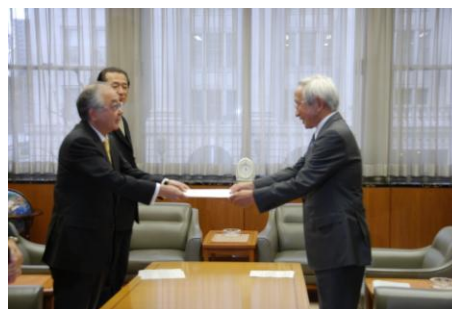
連合本部での出迎えを受ける福島チーム

3. 経済同友会、日商、全国中央会に雇用問題等について要請

連合は、4 月 5 日の日本経団連に続いて、本日午後、経済同友会、日本商工会議所(日商)、全国中小企業団体中央会(中央会)に対して、「東日本大震災に関する雇用・労働問題等についての要請」を行いました。

古賀会長・南雲事務局長は、要請の趣旨を伝え、
「いま目の前で起こっている雇用問題はもちろん、今後の復興にあたって雇用問題は非常に大きな課題である。是非、要請の意を汲み取って、会員企業に発信いただきたい」と要請しました。

桜井・経済同友会代表幹事は「要請書を見ても違和感はない。各企業に対して『人的・物的資源を最大限に活かし復興支援に全面的に協力すること』、『雇用問題・採用活動に最大限配慮する』ことも求めている」、岡村・日商会頭は「雇用は重大な問題である。経営者はどうやって雇用を守ろうかと必死にやっているの、日商はその思いをサポートしたい」、眞鍋・中央会専務理事は「今後も厳しい状況になると思うが、労使でよく話し合って最善の答えを見つけていきたい」と受け応えました。



日商・岡村会頭(右)に要請書を手渡す古賀会長(左)



中央会・眞鍋専務理事(右)に要請書を手渡す南雲事務局長(左)

4. 「自衛隊輸送スキーム」による救援物資 送付休止

連合本部は、構成組織・地方連合会に対して、「自衛隊輸送スキーム」を活用しての救援物資送付をお願いしてきましたが、内閣府より、すでに物資が山積み状態で受けきれないなどの理由で、4月8日から全国一斉でこのルートを休止するとの情報が入りました。

再開については未定ですが、内閣府によると「以降は、仮設住宅で使う軽便な家電等のニーズが高まる。その際にはスキームの再始動がありうる」とのことです。現段階で物資集約を進めている構成組織・地方連合会には、いったん集約を停止し、集約済みの物資については、別ルートによる被災地への送付や、被災者が集団避難されている拠点への振替送付などのご対応をお願いします。